

分野	歴史
	地域
<h2 style="margin: 0;">妙音寺</h2> <p style="margin: 0;">～相知 禅宗の寺～</p>	
<p>◎地図・写真・統計資料など</p>	
<p>唐津市相知 山号 瑞松山 宗派 曹洞宗 本尊聖観音 『唐津拾風土記』によれば「馬場村瑞松山妙音寺、開山湛然和尚 延文5年（1360）庚子2月17日遷化、開基相知築地孫四郎蓮喜入道禅正、本尊施主禅正妻善勝尼、正面額「施 無 畏」築地蓮喜は松浦源太夫判官久5代相知的の領知他、湛然和尚文和4乙未（1355）8月11日寺務を主體に譲る、筑後・佐嘉領主より寄進状有り、吉野の主上御綸旨等有り、其後破壊、200年に及て享禄2乙丑年（1529）武雄圓應寺2世勝山和尚、波多三河守盛を大檀那として再興有り、寺領等昔の如し、其後又破壊、文禄年中（1592～1595）豊臣太閤 名護屋在陣の時、岸山にて瓦を焼かせられ候へども不足ゆえ、此辺の荒寺院の瓦悉く取寄られ、妙音寺も同前なり、其後今の所に再建、寺領年貢地となる…」とある。</p> <p>また同寺に残る文書には 「馬場村瑞松山妙音寺は昔は山の頂に有りし由申し伝う。今に其跡有之。松浦党築地孫四郎入道禅正為住居、寺を作り妙音寺と号せり。年を経て湛然大和和尚行脚して同地に臨来伽藍を建立す。相知孫四郎蓮喜崇敬之せり。田畑寄進状今世迄存在す。…略 本願築地孫四郎入道蓮喜 康永4年（1345）乙酉6月17日卒。時は嵯峨源氏松浦党渡辺綱より4代松浦源太夫判官久 五代之孫他。則相知邑知行す。</p> <p>本尊聖観音造立観応3年 築地孫四郎入道禅正妻女善勝禅尼造立 仏師奈良方宰相湛勝 脇子二天同断。湛然本所大和尚 文和4年（1355）、寺務を至躰維那に譲る。後歌堂和尚と称す。此の僧 智・徳在りて 筑後国 佐賀領より歴々の知行寄進状在之。將軍家より住持を選ふべきもの、御教書の返事の控、又吉野の主上よりの諸綸旨在之。世に聞えたる大地と見えたり。</p> <p>其の後本朝相續く戦国の故にや住持の僧侶もなく、伽藍破壊せり。相知之末葉も衰えにき。其後享禄2年（1529） 武雄圓應寺2世勝山大和尚 波多壱岐守源盛大檀那として、再興して知行も昔のごとくなりし。</p> <p>文禄3年（1594） 豊臣太閤秀吉公朝鮮出兵の時、波多三河守源親 依御勘気被御遠流之後、名護屋御城に妙音寺を崩し取られしより、かたの如く小寺になり、知行の田地も御年貢地になりし・・・。」とある。</p> <p>住所：〒849-3201 唐津市相知町相知1677 TEL：0955-62-2047</p>	
◎引用・参考文献（出典）	
◆佐賀新聞ホームページ「ひびの」より	
◎エピソード・伝承・うんちく など	
◎もっと詳しく知りたい方は	
<p>当寺の本尊である観音菩薩像と脇侍の二天像（持国天・多聞天）は、修理木札などから観応3年（1352）に当地の領主築地孫四郎入道禅正を檀那として、仏師湛勝によりつくられたことを伝えている。</p> <p>この観音菩薩像は、南北朝時代の1352年に湛勝という仏師が制作。広く平らかな額や、太い鼻筋などの顔立ちは、運慶から4代目の湛康の作風に似通っており、湛勝は湛康につらなる仏師とみられている。2009年県立美術館特別展「運慶流」（県、佐賀新聞社など主催）で一般公開された。</p>	
<p>唐津市近代図書館へお問い合わせください。</p> <p>■電話：0955-72-3467</p> <p>■ホームページ： http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html</p>	